

■村田珠光 茶人。茶の湯開山。“佗数奇”を深化し、書院茶の湯を仏寺の方丈の理念に叶う四疊半茶の湯に改めた。

むらたじゅこう

・ ・ ・ ・ ・ 1422＝ 生。伝説では奈良の御門町の村田壺市検校の子。

義教鑑引將軍1428＝ 6歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1431＝ 9歳：

永享の乱終・1439＝17歳：_興福寺配下の北市の称名寺に入ったが、

結城合戦・・1440＝18歳：

嘉吉の乱・・1441＝19歳：

_興福寺衆徒らの間に流行していた奈良茶(闘茶)遊びに耽溺。これがたたって寺を追われ、

_放浪のすえ、

足利義政將軍1449＝27歳：

大和土一揆・1451＝29歳：この頃、*京都大徳寺の真珠庵におちつき、

_茶の湯・目利雪き(道具の鑑定)に抜群の才を示し、諸芸の人々と接しつつ、しだいに“佗数奇”の理念を深めた。一休宗純に参禅して、禪院での茶湯皆の所作に点茶の本意を悟ったと伝えられるも、この所伝には後世の潤色と考えられる面が少なくないが、禅僧との交流にあわせて、歌師の心敬・飯尾宗砥、香道志野流の祖である志野宗信らとの親交が、その理論の深化に役立ったことは疑いない。従来の書院茶の湯を仏寺の方丈踏(一丈四方)の理念に通うとされる四疊半茶の湯に改めたことも茶道史上に名高い。

・ ・ ・ ・ ・ 1458＝36歳：

寛正大飢饉終1462＝40歳：この頃、*能阿弥の推薦で、將軍足利義政の茶道師範をつとめ、

応仁の乱始・1467＝45歳：_応仁の乱中は奈良へ疎開したらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 1476＝54歳：

応仁の乱終・1477＝55歳：

狩野正信絵師1483＝61歳：*將軍足利義政が東山に居を構えて以降、義政を指導。

山城国一揆・1485＝63歳：

足利義政没・1490＝68歳：

大内義興入京1491＝69歳：_一休10回忌に50文、

・ ・ ・ ・ ・ 1494＝72歳：_一休13回忌には1貫文を奉加して、

著述に、弟子古市澄胤に宛てた教訓「古市播磨法師宛一紙」(「心の文」)があり、武野紹鷗に先行する珠光の思想をとらえるうえで貴重な史料である。

・ ・ ・ ・ ・ 1502＝80歳：_没した。

松岡心平「中世を創った人々」,「この人どんな人」,「没年日本史人物事典」,「人物日本歴史館」,「日本の群像」,平凡社百科事典,